

★2学期Ⅰ期8月下旬～10月上旬教育課程(指導計画)★



<年少・れんげ>

夏が終わる自然の変化から、プールの終わりの季節の虫に注目したり、植物の成長（芋の成長）等に気付く姿がみられる。他のクラスや他学年が何をしているのかをきっかけに、自分たちがしたいことに繋がられるように支えていくことで、子どもが主体的に取り組めるような活動になっていきます。

一学期の流れから、芋の収穫を体験していきます。植物の成長、栽培方法、成長過程を間接的な体験、収穫という具体的な体験を年中、年長へと繋げていくベースをつくっていきます。

収穫した芋を自分たちで食べたいという中で、その調理方法についての情報を集める体験をしていきます。誰から聞か、誰と考えるのか、得た情報をどうするか？自分で知りたいことを、どうしたら得られるのか、そしてどんな伝え方があるのかについて触れていきます。

運動会では、フィクションの中で、遊び事を体験した1学期から、少し複雑な物語の組み立てになっている「一寸法師」を取り入れることで、姫との愛着関係を軸に、対立物（オニ）に向かって「何の為に、何をするのか」を感じ、一寸法師になりきる体験をします。そして一寸法師として、家来テスト・爆弾ボール等の運動遊びを意欲的に取り組む姿があります。

設定遊具等を通して、三角積み木に駆け上り、よじ登り・はしごの登り降りを練習する中で、日に日に出来ることの喜び・達成感を味わうことで「もっとできるようになりたい！」という意欲にも繋がっていきます。目の前に置かれた課題を達成するために、自分の体をどう動かしたらよいか意識することで、一つ一つのことに集中して取り組む姿になります。

保育者は、個々の成長段階にあった課題（スモールステップ）を意識して関わることで、苦手意識のある子に対しても、達成する喜びを感じられることを大切にしています。



<年中・たんぽぽ>

1学期には、年長のおいもの活動に関心を持ち、それをまねることで自分たちもおいものを育てているというつもりになっていました。引き続き、年長の動きを察知し、おいもの収穫、調理して食べることに繋がっていくことで、次の年、自分たちがおいも作るために必要なことを体験し主体的に取り組めるための知恵を得ていきます。

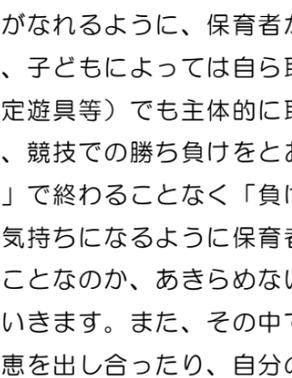
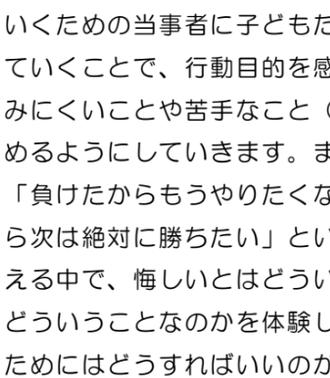
また、1学期のオタマジャクシなどの生きものに触れた体験を活かしながら、生きものの命を預かるとはということなのかの体験をしていきます。与えられた生き物を飼うのではなく、子どもたち自身が望んだ生きものと出会えるように活動にフィクションをかけて構成することで、主体的にお世話をしたり、生きものの身になって感じたりできるようにしていきます。

その構成とは、保育者がカメちゃんの魅力を感じていて、どうしてもカメちゃんとあそびたいという願いを子どもたちの打ち明けるところから始まります。そして、子どもたちが保育者の心情に共感し、カメちゃんがあそびに来てくれるためには、どうすればいいかを話し合ったり、あそびにきてくれることを楽しみに待ちます。その中で、カメちゃんとはどんなことをしたいのか？というイメージを膨らめたり、カメちゃんを擬人化して「こんなカメちゃんに来て欲しい」という願いをみんなで持つことで、子どもたちのカメに対する愛情を膨らめていきます。

また、「カメちゃんって何食べるのかな？」という疑問や感じたことから、図鑑で調べたり、身近な大人に話を聞いたりするなど、情報をどのように集めるのかという体験をしたり、それを伝え合うことを体験していきます。このようなことから、生きているものへの温かな感情が芽生え、命を大切にするために必要と判断していく中で、心の葛藤を体験し自制心が育っていきます。



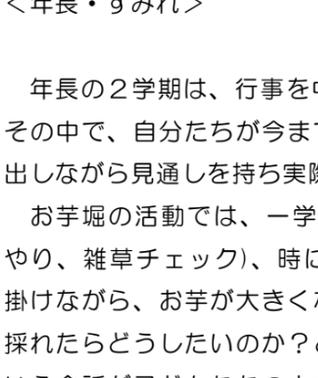
運動会では、ピーターパンというフィクションの世界であそびますが、対立物であるフック船長を倒してウェンディーを助けるという問題解決の構成を持たせます。その問題を解決していくための当事者に子どもたちがなれるように、保育者が支えていくことで、行動目的を感じ、子どもによっては自ら取り組みにくいことや苦手なこと（設定遊具等）でも主体的に取り組めるようにしていきます。また、競技での勝ち負けをとおして「負けたからもうやりたくない」で終わることなく「負けたから次は絶対に勝ちたい」という気持ちになるように保育者が支える中で、悔しいとはどういうことなのか、あきらめないとはどういうことなのかを体験していきます。また、その中で勝つためにはどうすればいいのか知恵を出し合ったり、自分の気持ちや思いを言葉にしていけることが、次への意欲につながることを学んでいきます。そして、運動会で行われる年長児の活躍を目の当たりにすることで、次の学年に自分たちになることへの期待感やそのステイタスを感じていきます。



<年長・すみれ>

年長の2学期は、行事を中心に日々の生活が進んでいきます。その中で、自分たちが今まで（年少・年中）経験した事を思い出しながらかみ通しを持ち実際に行動していきます。

お芋堀の活動では、一学期後半から芋苗、お芋のお世話(水やり、雑草チェック)、時には「大きくなってね～」と声を掛けながら、お芋が大きくなることへの期待が膨らみ、お芋が採れたらどうしたいのか？どんな料理をして食べたいのか？という会話が子どもたちの中から出てきます。実際に収穫したお芋の大きさを比べ合いながら、クラスの友達と沢山採れた喜びを互いに共感する姿も見られます。今までの経験からお芋の運び方、保管の仕方など、自分たちでお芋堀までの見通しを持つことができるのです。



運動会では9月のマラソン大会や原生林の音楽をきっかけに「運動会をやりたい！」と学年全体に広がっていきます。しかし、子ども達はやりたい種目は出てくるが、設定をしてある積木を駆け上ったり、鉄棒にぶら下がるといった「練習をやっているつもりあそび」からは、〇〇ができる、という姿になっていくことが難しいので、何をどうできるようにになりたいのか、そのためのどんな練習をすればよいかなどを保育者といっしょに子どもが考えることで「いま何をしたいのか？」が分かり、「自分がやる！自分でやる！」を意識し、言われたことをやるのではなく「自分の意志で練習をする」ようになります。また運動会が近づくにつれ、子ども達は「自分がやる！」という意識を持ちながらも周り（クラス・学年）を意識しお互いに声を掛け、自分たちで見通しを持って準備をしたり練習したりする姿が変わっていきます。

